

### 19-3 ウエペケレ「ウッコッナイ アイヌ アネ」

#### 質問と解説

語り手：平目よし  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：今の uepeker [散文説話] のなかでね？

平目：はい。

萱野：ocakok っちゅうの、言ったなあ？

平目：うん。

萱野：これはどういう意味だね？

平目：「色深い」っていう意味。

萱野：色深い？

平目：はい。

萱野：ふうん、ocakok。それから……

平目：ocakot.

萱野：うん。ocakok っちゅうの、したら、どういうこと？ 「色深い」といつても……。

平目：女引っ張るのよお。

萱野：うん、それ……

平目：人のかか〔嫁〕でも、人の娘でもみんな epakoat〔罪にとらわれる〕しるから。

萱野：ocakok という……

平目：ocakot ていうの。

萱野：後ろさ柴ふつついてる〔くつついている〕みたいだ。

平目：フッフッ（笑）。

萱野：ああ、引っかかって歩くからか？

平目：フッ（笑）。

萱野：そういう意味もあるの？

平目：知らないって（笑）、ocakot て。

萱野：うん。

平目：色深いっていう言葉だっけいったよ？

萱野：うん。ay... anaysir〔死人〕っちゅう言葉言ってたな、anaysir。

平目：anaysir ったら死人。

萱野：うん。

平目：ほとき〔仏〕。

萱野：うん、仏。

平目：うん。

萱野：うん、うん。

平目：仏さんの言ったことを。

萱野：うん。それは、反対できないって。

平目：うん。

萱野：遺言は……、その、「遺言には反対しないもんだ」ということだとかもあるわけだな？ したら。

平目：はい、はい。

萱野：うんうん。

フチ 1：死んだ人には（反対しないもんだ）。

萱野：フッフッ（笑）、ウーン、なるほど。

平目：フッ（笑）。

萱野：そうしたら、今の uepeker〔散文説話〕は、今日でおやすみ。

平目：フッフッ（笑）、今日で終わり。

萱野：エー、この uepeker〔散文説話〕は、これ 19 号の 38 分から、いや、18 号テープの 38 分から、この uepeker は入っております。

えーあたくしは一人の aynu〔人間〕でありました、と。一人前になってどういうわけか、とつても、その、色深いというか、今おばあさんの説明によれば、その、色深くって。えー自分の家内ばかりでなくって、娘であれ人の妻であれ、次から次と女関係でその、しかられることばかりする。

そうしておって、おるうちに、ある時に、自分の妻を急に急に夜殺したくなくなってしまって、それを両手で首を絞めた、と。

そして、首を絞めて殺してからはじめて気がついて、「こんなことではこれだめだ」と。「いつまでおっては、次々と、その、人の妻とか、それから娘にまでそういうことではだめだから、どっか行って死んででもし

まおうか」と思って、ま、自分の妻を殺しただけで、夜こっそり家のなかである **suwop** [箱] といって宝物入れてある箱を一つ取り出して、それを背負ってずっと、まあ、村をなげて [捨てる] 出て行って。そして、何日か歩いて歩いて、一軒の家へたどり着いた、と。

そこでまだ (せき払い) ……、そこでまだ何日か暮らしておいたら、そこで娘がおって、その娘あまり器量はよくないんだけど、まあ、その親父さんにも頼まれたので、その、そのあまり器量のよくない娘を嫁にして、そしてまあ、1年2年と暮らした、と。そうするとまだ、ある夜のこと急に、その、自分の妻である女を殺したくなったので、それを首、両手でポッと絞めて殺ししまった、と。

「このままでは、これ、まだ次から次と他の人にも何かそんなことで、女次々殺すようなことではいかん」と思ったので、もう自分で死のうかと思うぐらいにした、と。それでも、まあ、死のうかという、何か声を出したの、そのしゅうとじいさんが聞きつけて、まあ、飛び起きて、「そんなことではだめだ」と。「まあ、若い時というのはいろんなことがあるものだから、そういうことでおまえ自殺などしてはいけませんよ」と、まあ、なだめられて、まだそこで何日か……何日かでない、何年かおった。

その、まあ、しゅうとじいさんがまだ新しく別に嫁をもらって自分に預けてはくれたんだけど、それもどうも思わしくない、と。それでまだそれをも殺して、から「もうこのままではどうもならんから、どうせもう、どっか行って死んでしまおう」と、それを殺してから自分の **suwop** [箱]、いわゆる宝物箱を背負って、ずっと山奥へ入っていった、と。

そうすると一本の大きなエゾマツの木があって、そのエゾマツの枝が垂れ下がって、その下は家ようになっておるので、そこへ入って。まあ、その **suwop** という宝物箱を枕にして寝たというところで話が違って。

今度、石狩のほうからだな？ 人来たの、あの……。

平目：今死んだ人ね。

萱野：うん、死んだ人は石狩から来て。

平目：はい。

萱野：で、十勝のほうから来たのか？ あの、助けに来た……。

平目：Yupet [湧別]。

萱野：あ、Yupet から。その、話変わって、まあ、その宝物枕にして死んだ、その、何人もかか〔嫁〕を殺した人は別として、話変わって。Yupet の二人兄弟の非常にいい家の二人兄弟、あたしたちでありました、と。

ある夜のこと、こう寝ると、遠くのほうへ、その、男の人の yaysama〔即興歌〕というか、自分で何かその、物悲しげに yaysama をゆっておる声が聞こえるような気がする。頭を上げるとそれが聞こえなくなる、まだ〔また〕枕の上頭のせるとそれが聞こえるというふうな、ま、遠くも聞こえるし近くも聞こえるので、夜ではあるけれども、急いでまかない〔身支度〕をして、その声のするほうへ急ぎ足で、何ぼ行っても、だんだんだんだん山奥へ行く。

どうやら、その大きな一本のエゾマツの木のあるところへ行ったら、側近く行ったら、「私はもう死んでおるんだけど、あんたに来てもらいたい理由があつて来てもらったんだから、ちょっと話を聞いてください」という。そこで黙って聞くと、その「そう今まで何人も妻を殺してきた理由は、あたし自身がそうしたくてしたんでなくって、私はもう生まれながらにして非常に器量よしであつたので、それを」、うんつと、kannakamuy〔雷神、龍神〕？

平目：うん、kannakamuy。

萱野：tu... turesihi〔の妹〕……

平目：kamuy or\_ ta〔神様のところで〕と一緒になる okaypo〔青年〕いなくて、aynu or un〔人間のところを〕見れば。

萱野：うんうん。

平目：その okaypo さばっかり kokow〔婿〕にして(?)

萱野：うん、うん、なるほど。えー、「死んでみてはじめて分かつたんだけど、私は、まあ、非常に器量よしで生まれた。それで、その天にいる、龍……、龍神の妹の女神が『神様の国で自分の夫にしようとする者を探してもみつからなくて、aynumosir〔人間の国土〕へ目を落としてみたら、そこでおまえがおつたので、妻にしようとして……、いや、夫にしようとして、次々とそういうその、悪さをさせた』と。いわゆる ocakok させた、

と。『色深くわざとしむけて、次々として、何とか自身、自分自身でその男が、まあ、今のような状態で死ねば、その魂をとって神の国でお嫁に……、いや一緒になろうと、お嫁にじゃなくて婿にしたい』と。そういうことで、こういうふうに、自分自身が考えてしたんでなくて **katu a=kar** [だまされて] だな？ いわゆるその、神様の……から、そういうふうにさせられて、しむけられて、こういうふうになったのが分かった」と。

「それ、死んではじめて分かったんだけど、私の育ての、実際の父も母ももう死んでしまったし、この後どうすることもできないから、この宝物はおまえにあげるが、行って、**asurpusu** [知らせを持っていく] と言って、その私の住んでおった村へ行って、よくいろんな事情を話して、私自身も神の国へ帰れるようにしてください」というふうに、その湧別の人が頼まれて、それを村へ知らせるのにも特別な、その村の、その風習があつて、村へ行ってものを知らせるのにも、急に「こうでした」と言わずに、村へ入る前に **yayoturimukote** [悪い出来事を知らせる前触れの声] という、アイヌ語で言うんですけれども、大きい声を出しながら勇み足を踏み、そして「こういうことで来ました」というと、向こうからもちゃんと武具をつけて、女も男も大勢集まって迎えられて、そこでその、そういうことを **asurpusu** というんですけれども、話をして。

それによってまあ、「神の国へ私も帰れるように」と言われたのでその村へ行き、そして、それぞれのことを知らせて。もう一度もとの場所へ戻って、まあ、それは山でちゃんと葬って、宝物だけ私がもらい、そして、十勝のほうへ来て、生活をするようになりました。

だから、もともと生まれが十勝の者でなくて、湧別生まれの私であつたので、子供や孫たちも、決してその、あまりおごつたまねというか、遠慮のない振る舞いをしてはいけませんよ、と。必ず、よそ者だと言われないうちに仲よく暮らさなさい、と一人の男が言って死にました、というのが、今のあらあらの筋だな？

平目：うんうん。

【注】

[1] ocakok は ocakot の言い間違いであろうか。以下同様。